

「解体新書」(小田家(山口市吉敷)53)

いやす  
なおす  
たもつ



文書館資料にみる  
病気・医療・健康

23

医学あれこれ⑤

## 当館所蔵の医書

当館は現在、江戸から明治期の 200 種以上の医書を所蔵しています(別表参照)。ここでは、防長出身の 3 人の医者に関わる著作を紹介します。

### 【永富独嘯庵】(ながとみどくしょうあん)

豊浦出身の医者・儒者・経世家。享保 17 年(1732) 生。江戸で儒学を学び帰郷ののち京都で山脇東洋に入門、漢方医学とともに解剖学を修得。越前で奥村良竹に、長崎で吉雄耕牛に学び大坂で開業。また製糖法を世に広めました。明和 3 年(1766) 没。当館には別表 ID137、191、198 の著作があります。特に 137「漫遊雑記」は華岡青洲の乳がん手術の契機になったといわれています。

### 【池田瑞仙】(いけだずいせん)

岩国出身の痘科医。享保 20 年(1735) 生。曾祖父の池田正直以来家学とする痘科を学びました。安芸厳島での痘病治療で名をあげ、大坂・京

都で開業。寛政 9 年幕府の医官となり、翌年幕府医学館初の痘科教授。文化 13 年(1816) 没。当館には別表 ID128、160、161、190 の著作があります(解説シート 12 参照)。

### 【岡研介】(おかけんかい)

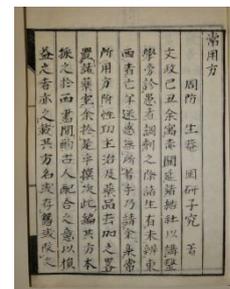
熊毛郡平生村出身の医者。寛政 11 年(1799) 生。豊後日田で広瀬淡窓、福岡で亀井昭陽、長崎でシーボルトに師事し、鳴滝塾では初期の塾長となりました。大坂で開業ののち帰郷、岩国藩主に招かれました。天保 10 年(1839) 没。当館には別表 ID187、189、195 の著作があります。

\* 195 の『蘭説養生録』は鳴滝塾同門の高野長英との共訳で、萩の豪商熊谷五右衛門の兄による筆記とされています(当館のものは刊本からの筆写)。岡は熊谷家から学資援助を受けるなど深い関係にありました。熊谷家に現存する日本最古のピアノは研介の世話でシーボルトから贈られています。



「漫遊雑記」(永富独嘯庵) 村田峯次郎の「長周叢書」の一冊として公刊もされています。

(小野家文書 1008、一般郷土史料 1040)



「常用方」

岡研介が日本に初めて生理学を紹介した「生機論」とならんで、彼の経歴を知る上でも重要な著作です(写)。

(吉田樟堂 1301)

医学あれこれ⑤

第 11 回中国四国地区アーカイブズウィーク（山口県文書館）

ID	医書	著者	請求番号(記号は末尾に記載)	備考 2
1	医範提綱	宇田川玄真	A1、D1364 B和漢 39	文化 2 年
2	遠西医方名物考	宇田川玄真	A2 C162	文政 5 年～8 年。Cは断簡
3	和蘭薬鏡	宇田川玄真	A3	文政 13 年
4	遠西医方名物考補遺	宇田川玄真	A4	天保 4 年
5	瘍科秘録	本間玄調	A5 B和漢 50	弘化 4 年
6	济生三方	フーフランド、杉田成卿	A6 D1353、 1362、1371	嘉永 2 年
7	産育全書	水原三折	A7 B和漢 45	嘉永 3 年
8	窟篤児薬性論	ワートル、林洞海	A8	安政 3 年
9	西医脈鑑	モール、広瀬元恭	A9	安政 4 年
10	病学通論	緒方洪庵	A10	嘉永 2 年
11	扶氏経験遺訓、同附録	フーフランド、緒方洪庵	A11、56(附録) B和漢 58、59	安政 4 年
12	全体新論	ポプソン(合信)	A12	安政 4 年
13	察病亀鑑	フーフランド、青木浩斎	A13	安政 4 年
14	西医略論	ポプソン(合信)	A14、62(下) B和漢 40	安政 5 年
15	婦嬰新説	ポプソン(合信)	A15 B和漢 47、48	嘉永 2 年再刻
16	覆薬鑿法	結爾別児篤、石黒恒太郎	A16	明治 2 年
17	斯篤魯黙児砲痰論	ストロメル、佐藤舜海	A17	慶応 1 年
18	日講記聞	ボードイン(抱独英)	A18	明治 3 年
19	袖珍薬説	ウェーゼス、桑田衛平	A19	明治 3 年
20	内科簡明	クンツェ、林洞海	A20	明治 9 年
21	解剖必携	ヘース・エグニュー	A21	明治 6 年
22	原病学通論	エルメレンス(亞爾蔑聯斯)	A22	明治 7 年
23	血管病論(日講記聞)	グロス(虞魯斯)	A23	明治 8 年
24	越氏生理各論	エルメレンス、大久保常成	A24	明治 10 年
25	脚気論	メーエル、林紀(研海)	A25 D1369、1370	明治 11 年
26	眼科要論	マンスフェルト(満私歌児篤)、佐藤方朔	A26	明治 12 年
27	列氏窒扶斯病論(チフス)	レベルト(列別児篤)、高橋正直	A27	明治 12 年
28	病理各論	マンスフェルト(満私歌児篤)、佐藤方朔	A28	明治 11 年
29	外科総論	エルメレンス(越爾蔑唵斯)、高橋正純	A29	明治 13 年
30	養生法	松本良順	A30	元治 1 年
31	要薬便覧(写本)	?	A31	
32	撒羅満産論窮理篇(写)	ゴットリーブ・サロモン	A32	

	本)			
33	皮膚病論(日講記聞)	グロス(虞魯ス)、高橋正純	A33	
34	産科新論(写本)	ボードイン(抱独英)	A34	
35	薬性新論(写本)	リセランド(里設蘭士)	A35	
36	羅施人身窮理(写本)	ローゼ、緒方洪庵	A36	
37	薬物学(日講記聞)	エルメレンス(越爾蔑唵斯)	A52	
38	解体新書	杉田玄白ら	A53	安永 3 年
39	眼科新書、同附録	ブレンキ、杉田立卿	A55	文化 12 年、附録は文化 13 年
40	医療正始(1~24)	ビスコフ(昆斯骨夫)、伊東玄朴	A57 C170~173	安政 5 年 天保 8 年
41	内外新法	カラーウス(加刺烏斯)、緒方郁蔵(研堂)	A58	慶応 2 年
42	生理新論	エルメレンス(越爾墨連士)	A59	明治 6 年
43	外科各論(日講記聞)	エルメレンス(越爾蔑唵斯)	A60	明治 12 年
44	榕家煉膏書	榕林宗建	A61	近世後期(安政 4 年以前)
45	神経病論(日講記聞)	グロス(虞魯ス)、高橋正純 高橋正純	A63	
46	生理発蒙	リバック(李邈)、島村鉉仲	A64、76	
47	眼科病理新論(写本)	ボードイン(抱桃英)	A65	
48	華氏解剖摘要	ハルツホルン、村上典表	A73	明治 10 年
49	生理発蒙図式 全	リバック(李邈)、島村鉉仲	A75	
50	登高自卑	村松良肅	A78	明治 5 年
51	榕家縛帯書	榕林宗建	A127	嘉永 3 年
52	(縛帯法図)	榕林宗建	A130	
53	春林軒膏薬書(春林軒煮方便覧)(写本)	華岡青洲	A131	
56	内科新論	ロバート・バルソロウ(拔爾蘇朗)、鳥谷部政人	A202	明治 20 年
57	鼈氏内科全書	エ・ベルツ、広瀬佐太郎ほか	A203	明治 24 年
58	斯氏内科全書	ストリウムペル、保利聯ほか	A204	明治 28 年
59	鳴氏内科全書	メーリング、岡田栄吉ほか	A205	明治 36 年
60	増訂内科類症鑑別	寺尾国平	A206	明治 30 年
61	改訂内科類症鑑別	寺尾国平、富士川游	A207	明治 43 年
62	外科各論	佐藤進	A208	明治 21 年
63	外科通論	佐藤進	A209	明治 15 年
64	菲氏外科手術	クリストファー・ヒース、吉田顯三	A210	明治 14 年
65	朱氏産婆論	シュルチエ	A211	明治 10 年
77	日本薬局方随伴	櫻村清徳、伊勢錠五郎	A223	明治 24 年 5 版
78	薬説簡明	窟爾黠堀、松山棟庵、新宮凉園	A224	明治 11 年
79	日本薬局方備考	飯高芳康、青木純造	A225	明治 43 年
80	集成薬物学	伊勢錠五郎	A226	明治 29 年 2 版
81	治験録(東校医院)	東校医院	A227	明治 5 年?
82	実用解剖学	今田東	A228	明治 22 年 3 版

84	学校衛生講話材料	関以雄	A230	明治 34 年 3 版
87	山口県衛生法規	中原武一	A233	明治 32 年
88	万国衛生年鑑	大日本私立衛生会	A234	明治 26 年
90	掌中医範	大島樸、石原孝吉	A236	明治 43 年 3 版
91	実習救急法	竹中成憲、関以雄	A237	明治 37 年
92	学校衛生学	三島通良	A238	明治 32 年 6 版
93	脚気発明論	江馬春熙	A239	明治 11 年
95	医事法令全集	佐々木英光	A241	明治 43 年 5 版
96	皮膚病図譜	ムラツヱック、筒井八百珠	A242	明治 34 年 2 版
97	病理総論	田中祐吉?	A243	明治 15 年 3 版
98	児科必携	弘田長	A244	明治 27 年
99	善那氏種痘発明百年記念会報告書	佐藤保、ジエンナー	A245	明治 30 年
101	人体寄生虫病編	小西俊三	A247	明治 41 年
102	黒死病審論	水本元	A248	明治 27 年
103	冷水浴と冷水摩擦	中村千代松	A249	明治 44 年 4 版
104	新選電気療法	舟岡英之助	A250	明治 31 年
105	最近鬱血療法	福島尚純、加藤辰三郎	A251	明治 40 年
108	蘭氏生理学	ランドア(蘭土亜)、山田良叔	A254	明治 20 年
109	近世医学叢書	野田太一ほか	A255	明治 42~44 年
110	外科各論(写本)	エルメンス?	A256	
111	吐方撮要付微瘡治方論(写本)	加古坂(主水)	B73	文化 5 年
112	内科新説	ホブソン(合信)	B 和漢 41、42	安政 7(万延 1) 年
113	傷寒論	張仲景	B 和漢 43 木津屋家文書 191・192 D1344	正徳 5 年
114	校正傷寒論	張仲景	B 和漢 44	天保 10 年
115	産科発蒙	片倉鶴陵(元周)	B 和漢 46	寛政 7 年
116	天保年間ヨリ至明治七八年迄外科関係諸法(写本)	?	B 和漢 49	
117	微癘新書(梅毒)	片倉鶴陵(元周)	B 和漢 51	天明 6 年
118	靚聚方	丹波元簡	B 和漢 52	文政 2 年
119	薬物学(写本)	?	B 和漢 53	明治 18 年写
120	方機	吉益東洞	B 和漢 54	天保 7 年
121	類聚方	吉益東洞	B 和漢 55	明和 1 年
122	内服同功	山田寛	B 和漢 56	安政 4 年
123	解毒奇効方	原南陽	B 和漢 57	天保 9 年
124	叢桂亭医事小言	原南陽	B 和漢 60	文政 3 年
125	叢桂偶記	原南陽	B 和漢 62	寛政 12 年
126	孫真人備急千金要方	孫思邈(唐)	C158	卷 29~34
127	黄帝内経靈枢 卷 1	?	C159	
128	痘科鍵刪正補注	朱翼(明)、朱鳳台(清)、池田瑞仙	C162	(序断簡)

129	合類李挺先生医学入門内集	李挺(明)、八尾玄長	C163	(断簡)
130	蘭科内外三法方典 卷之三(断簡)	ウヲウテル・ハン・リス、橋本宗吉	C164	
131	新訂増補和蘭薬鏡 卷五(断簡)	宇田川玄真	C167	
132	千金翼方 卷 13、14	孫思邈(唐)	C168	
133	用薬須知後編 卷四(本草学)	松岡恕菴	C169	宝暦 9 年
135	人骨止凶 彩色	狩野探幽を模写?	D0215	
136	生々堂雜記	中神琴溪	D0941	寛政 11
137	漫遊雜記	永富独嘯庵	D1008 F379、380、986 I1040	文化 6
138	医戒	フーフランド、杉田成卿	D1072	
139	養生訓	貝原益軒	D1073 佐藤家和 255	(近世)
140	妙薬博物筥	藤井見隆	D1168	(近世後期)
141	[薬種集](写本)	?	D1169	
142	医道日用綱目	本郷正豊	D1223	宝永 2 年
143	秘伝書(諸病虚証経験(津田玄仙)、池田流瘡瘡ほか合冊)	津田玄仙ほか	D1266	
144	[医術書(一子相伝)]	?	D1267	天保 2 年
145	漢洋病名対照録	落合泰蔵	D1296、1343	明治 16 年
146	医療手引草上編坤	鳥巢謙斎	D1298	明和 9 年再版
147	急性病類集	岩佐純	D1302 ~ 1305、1375	明治 6~9 年
148	仮死論	森静男	D1306	明治 12 年
149	方海(写本)	?	D1307、1313	
150	方符(写本)	新宮涼庭(駈豎斎)	D1308	文化 12 年
151	眼科全書(写本)	?	D1309	
152	阿蘭油薬集解(写本)	穎川道庸	D1310	宝暦 1 年
153	布列私解剖書(写本)	フレス(布列私)、烏田圭三	D1311、1312、1324~1328、1390、1391	
154	二神家咽口秘伝書(写本)	?	D1314	
155	保寿院口訣(写本)	?	D1315	
156	陣法全書 金鎗諸方(写本)	?	D1316	安永 6 年写
157	尼迷児内科書(写本)	ニーマイル、福田正二	D1317、1318	
158	解体新書卷之一(写本)	?	D1330	
159	傷寒論(写本)	張仲景?	D1335	
160	痘疹戒草(写本)	池田瑞仙	D1336	文化 3 年?
161	戴曼公先生治療用方(写本)	池田正直	D1337	
162	癩瘡療治之秘伝 数度経	?	D1338	安永 7 年写

	驗之一方(写本)			
163	藥方之目錄(写本)	穎川道庸	D1339	安永 4 年写
164	養胎方 論方禁忌逐月養胎並千金孕胎治諸疾拔書(写本)	?	D1340	
165	子玄子産論(写本)	賀川玄悦	D1341	明和 2 年
166	種痘龜鑑	久我克明	D1346	明治 4 年
167	新纂藥物学	櫻村清徳	D1347~1352、1359	明治 10 年
168	十四経発揮鈔	谷村玄仙	D1354、1360、1378~1381	万治 4 年
169	医法明鑑	曲直瀬玄朔	D1355~1358、1363	(近世初期)
170	本草簡便	就安斎玄幽	D1361	万治 1 年
171	医方規矩(写本)	名古屋玄医	D1365	
172	弁薬則	福田正二	D1373、1374	明治 8 年
173	脚氣新説	アッキン(亜斯)、長谷川泰	D1376	明治 4 年
174	脚氣新論(写本)	ボードイン(鵬度英)、島田貞哉	D1377	
175	人身窮理書	リセランド(利摂蘭土)、広瀬元恭	D1382~1384	安政 3
176	相法黒子集説秘訣(写本)	?	D1387	寛政 6 年
177	外科秘伝書(写本)	?	D1388	
178	脈診口訣(写本)	?	D1389	天明 4 年
179	種痘篇(写本)	カンstatt(罕斯達篤)	D1392	
180	千金家法集(薬調合法、写本)	?	E1	
181	薬調合書(すり薬)	?	E2	
182	薬調合書(虫薬・腹下留薬)	?	E3	
183	薬調合書	?	E4	
184	狼ノ牙黒焼	?	E5	
186	河豚談(写本)	賀屋恭安(澹園)	F1178	文政 13 年
187	周礼医師職鈔解(写本)	岡研介	F1299	文政 6 年
188	遠西二十四方(写本)	坪井信道	F1300	天保 2 年?
189	常用方(写本)	岡研介	F1301	文政 12 年
190	池田先生痘瘡方鑑(写本)	池田瑞仙	F1302	寛政 4 年
191	吐方考	永富独嘯庵	F1303	寶曆 13 年
192	続医断	賀屋恭安(澹園)	F1304	文化 8 年
193	痘疹軌範(写本)	南部伯民	F1305	
194	治痘秘訣(池田先生痘瘡秘訣)	斉藤方策	F1306	
195	蘭説養生録(写本)	岡研介・高野長英共訳	F1420	
196	好生緒言	賀屋恭安(澹園)	F1594、1595	天保 10 年
197	医断	鶴冲元逸	F1790	宝曆 9 年
198	囊語	永富独嘯庵	F986	文化 6 年

			I1040	
199	掌中西医日用方	中川淡斎	G 和漢 175、176	元治 1 年
200	外科衆方規矩	神保玄洲	G 和漢 177	文化 2 年
201	折違辰(写本)	?	G 和漢 178	慶応 3 年表紙調
202	格斯篤児原生学 卷 2 (写本)	格斯篤児	H442	
203	解剖新書(写本)	烏田圭三訳	H443・449・450、D1330	
204	尼氏医鑑(写本)	ニーマイル、福田正二	H444~D1265、1319~1323、1331~1334、1345、1372	
205	官刻 普救類方	幕府	塩田家文書和漢 124~135	享保 14 年
206	人民重宝 万病治療法(一名医者いらす)	?	河野家文書(山口市)847	明治 33 年
207	[医]方集(写本)	?	国司家文書和漢 236	
208	胎生并脳図 佐川寛治所有	?	佐川家文書(大島町)1551	明治 20 年
209	五臓六腑内系之図	?	小田家文書(金屋)和漢 512	
210	枝養録	南部伯民	図書 081-28	享和 3 年
211	治痘新局(コピー)	久坂玄機	岸浩文庫 587	

請求番号の記号

A	小田家文書(山口市吉敷)
B	伊藤家文書(宇部市)
C	井上家文書(防府市)
D	小野家文書
E	永田家文書
F	吉田禱堂
G	内田家文書(防府市)
H	尾崎家文書(防府)
I	一般郷土史料